

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年4月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4674000130
法人名	医療法人 杏政会
事業所名	グループホーム つる
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町鶴田2691番地1 (電話) 0996-55-9988
自己評価作成日	令和3年2月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pccpub/top/
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者もご家族も健康で長生きを目指しておられ、職員も望む暮らしを実現できるよう健康管理や食事面、生活リハビリ、環境面に力を入れています。健康管理の取り組みとして、特に口腔ケアに力を入れています。法人内の歯科衛生士の定期的な訪問指導を受け、毎日の口腔ケアや管理を実施し口腔トラブルの予防ができるよう取り組んでいます。

食事面に関しては外部機関であるほっとキッチンより、バランスの取れた食事を提供しています。行事時には行事食の献立メニューもあり、季節感も感じていただきながら食事を楽しんでいただいています。食事レクリエーションも行い、職員とご利用者と一緒に漬物作りなど馴染みのある物を作り楽しみややりがいも持っています。

また、定期的な作業療法士の訪問指導・評価を受け、その方に応じた生活リハビリを実施し、日常の中で楽しみながら取り組んでいただけるよう支援しています。

環境面に関しては、入所前の暮らしや環境の情報収集を行い、ご家族にも協力をいただくことで『自宅で生活しているような環境』作りを目指しています。可能な範囲で使い慣れた馴染みのある食器や家具等を持参していただくことで、家庭的な環境の中で生活していただけるようにしています。

職員も年間を通して、介護・認知症に関する外部研修や認知症介護指導者を招いての内部研修を定期的に行い、理解や知識の向上を図っています。

ご利用者一人一人に寄り添う介護を実践し、笑いの絶えない安心して暮らせるグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は国道沿いの静かな集落に立地し、郵便局や学校・商店・協力歯科医院が近隣にある。地域の商店の利用や住民との近所付き合いを日頃から行い、災害時等の協力体制が築かれている。
- ・運営母体の専門職や協力医療機関との協力体制が整っており、日常生活リハビリや口腔ケアに積極的に取り組み、本人や家族等の安心に繋がっている。
- ・コロナ感染防止の為、家族との面会自粛があるが、窓越しやリモート面会・玄関とリビングで間隔を取っての面会等を実施し、家族等との交流と共に心身の安定を図っている。
- ・代表者及び管理者は、法人内の認知症介護指導者による研修や外部研修に参加したり、資格取得を推進して職員のレベルアップを図っている。長期に就業できるように、職員の健康や家庭環境等に配慮した勤務形態に配慮し、就業環境整備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</p>	<p>明るく・楽しくを日々の目標とし、ご利用者、職員、地域住民との協力や交流を図り運営している。</p>	<p>理念を玄関・リビングに掲示している。職員は理念を共有し、常に意識しながらケアに当たっており、行事計画も理念を根底に作成し取組んでいる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>ご利用者と一緒に近所の商店へ買物へ行ったり、ホーム行事で行った焼き芋等のお裾分けを行い喜んでいただいている。地域住民より花の提供をしてくださるなど良い交流が図れている。</p>	<p>日頃から、地元商店での購入や近隣住民へ事業所行事で作成した焼きいも等をお届けして地域友好に努めている。災害時等の協力依頼もしている。住民からは花の差し入れ等があり、地域とは日常的に交流している。</p>	
3		<p>○事業所の力を生かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。</p>	<p>入所希望に来られた方や事業所へ来られた方に対して、認知症の方々の支援方法や助言、介護に関する相談に応じている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>基本的には概ね2か月に1回実施していたが、コロナウイルス感染拡大予防のため、行政確認の上、書面での報告・検討を行っている。多方面の意見を聞き実践やサービスの向上につなげている。</p>	<p>コロナ感染防止の為、2ヶ月毎に会議は書面開催として、資料等は送付または持参している。事業所のコロナ対策の状況報告や事故報告を説明し、返信用ハガキで意見を聞く工夫をしている。行政には持参したり、地域代表には会って話をして、意見を活かした取り組みを行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の報告書を提出し、必要時は適宜電話やメールを用いての報告や相談、窓口へ出向き連携を図っている。</p>	<p>介護保険及び生活保護担当者とは、メール・電話での相談や報告・資料等を窓口を持参し連携を図っている。行政のリモート会議や研修会に参加して情報収集に努めている。アンケート調査にも協力している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関しての勉強会を実施し、正しい知識と理解を深めている。日々の業務の中でも職員一人一人が『身体拘束をしないケア』を意識し、言葉遣いにも配慮しご利用者と接している。日中は施錠はせず、行動の制限も行わないよう見守りや安全確保に努めている。</p>	<p>指針が有り、身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回、研修会を年2回実施している。日々の業務の中でスピーチロックに気付いたらお互いに注意し合ったり、ケア会議時に議題に上げ、取組んでいる。玄関は施錠せず、職員間の見守りと連携で利用者の安全で自由な生活に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待についての研修を実施し、日常の中で虐待につながる行動や発言などがなく職員間でも注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する内部研修の開催や、外部研修へ参加することで学んだことを職員間で共有し、知識・理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時は重症事項説明書に沿って分かりやすい言葉で説明し、項目ごとに確認を取りながら疑問点には応じ、理解・了承を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	概ね2か月に1回行っている運営推進会議の報告や、年2回実施している家族会（前年度・本年度はコロナウイルスの感染拡大予防のため中止）において意見や要望を聞く機会を設けている。日常的なご意見等は面会時や電話、メール、手紙等での対応を取っている。	利用者には、日常の関わりの中で要望を聞いて対応している。家族には、来訪時やメール・電話等で情報を提供し、要望等を聞き可能な限り反映させている。歩行器の要望があり、法人の作業療法士に相談して、家族と話し合い、取組んだ事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	概ね月1回のミーティングを実施し、職員の意見や提案を聞き運営に反映している。改善点や運営に関する相談は月1回母体で開催される経営会議の場でも報告や相談を行っている。	管理者は職員と普段から意見等が言いやすい雰囲気作りに努めている。毎月のミーティングで職員の提案等を聞いて、反映させている。職員の勤務年数が長く、コミュニケーションが取りやすい。管理者は、年1回の面談や必要時の個別相談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的な健康診断やストレスチェックを実施し、職員の健康状態や家庭環境にも配慮した勤務形態での雇用をしている。互助会による行事等もあり、同法人による職員間の交流もあり意欲的に仕事に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修の機会もあり、介護や介護保険に関する新しい知識を学ぶ機会が確保されている。法人内に認知症介護指導者も在中しており定期的な研修も実施している。外部研修等への参加費や研修費のサポートもあり、職員のスキルアップも図れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の取り組みの様子や意見交換を行い交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前訪問や面談にて望む暮らしや困り事、その方の生活歴を聞き『ご利用者を深く知る』『信頼関係を築く』ことから始め、安心して入所していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前訪問や面談にて、ご家族の介護に対する思いや不安を傾聴し、これまでのご家族の関係にも配慮しながらご家族と職員が協力して、ご利用者を支援していけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の本人やご家族への聞き取りを行い、担当の介護支援専門員がいる場合は同意を得た上で情報提供も受けながら支援を検討し、必要時には他のサービス利用の提案や助言、紹介等の対応を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『利用者本位』であることを念頭におき、全てを介助するのではなく、調理や家事動作、農作業等を通してご利用者の得意な分野を活かし、日常の中で取り組んでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時や本人希望による一時帰宅や外出（当面はコロナウイルスによる影響にて制限中）を行ってもらい、本人とご家族の交流が図れるよう支援している。タブレットを活用したりリモート面会も実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が昔から利用されていた馴染みのある商店への買物同行支援や、出張販売を実施している。交流のあった方との関係性が継続できるよう支援に努めている。	家族との面会はリモート面会や窓越し面会・玄関とリビングで間隔を取って実施している。馴染みの訪問理美容や訪問診療・出張販売・馴染みの店での買い物等を継続し、馴染みの人や場所との関係が、途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席配置にも配慮し、お茶の時間やレクリエーションの時間を利用して良好なコミュニケーションや関係づくりが築けるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の行く先が決まっている場合は情報提供を密に行うことで、環境が変わっても可能な限り望む暮らしが送れるよう支援している。サービス終了となっても、必要時相談に応じフォローできるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に生活の中で希望や意向の把握に努めている。自己主体・自己決定を尊重している。	日常の関わりの中で思いや意向を把握している。生活歴や家族と話し合い、情報を得ている。やりたい事や食に関する希望もあり、職員間で共有して介護計画に活かしている。本人の意向を家族にも確認しながら支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中での聞き取りや、ご家族からの情報にてこれまでの暮らしの把握を行い、生活歴を大切にされた支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り時や全体でのミーティング時、介護記録を通して一人一人の暮らしの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・職員・ご家族・多職種の意見を交えてカンファレンスや担当者会議を行い、その方の現状に応じた介護計画を作成している。	本人・家族・職員・必要な関係者で話し合い、主治医の意見を入れて、介護計画を作成している。モニタリングを1ヶ月に1回実施し、6ヶ月毎及び状況変化時に見直して現状に即した介護計画にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に関する勉強会を実施し、統一した記録の記載に努めている。記録を通してケアの情報共有を行い、適宜ケア方法の検討や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族支援での病院受診や散髪等が困難な場合のインフォーマルなサービスの助言や提案を行い、必要時には調整の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元商店による出張販売の協力もあり、買い物レク・生活リハビリを兼ねたご利用者自身による買物が行えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望によってかかりつけ医を決定し、ご家族の支援が難しい場合は訪問診療の体制も取っている。訪問診療は概ね1か月に1～2回あり、必要時は電話での相談を行っている。希望時や必要時には専門医への紹介、連携を図っている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、支援を行っている。訪問診療以外の定期受診及び他科受診は家族対応で行っている。月1回の訪問診療も行われており、緊急時は主治医の指示を受けて対応し、結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員の従事者、訪問看護のサービス利用はなし。訪問診療時や必要時はかかりつけ病院への看護師への連絡や相談を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先に対して情報提供を早期に提出し、担当のソーシャルワーカーとの情報共有や入院後の方向性について随時検討している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現在は看取りまでの対応は行っていない。将来は終末期までのケアが提供できるよう体制を整え、ご家族・母体とも話し合いを行い取り組んでいきたいと思っている。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について説明している。段階的に、かかりつけ医から家族に説明し、食事が取れなくなった段階で、特別養護老人ホームや老人保健施設・入院等の選択肢について話し合い、家族の意向を聞き、支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>普通救命講習を受けている職員、喀痰吸引・胃ろう研修を修了した職員もおおり、日頃より急変時や事故発生時の初期対応について訓練や周知を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害マニュアルの勉強会、消防署員立ち合いによる防災訓練、通報訓練を実施している。災害時の必要時には近隣の応援支援の協力体制ができている。</p>	<p>年2回の避難訓練を昼夜想定で、消防署の指導の下、実施している。年1回は自主訓練を行っている。避難経路・避難場所・緊急通報装置の確認・消火器の点検・スプリンクラー等を確認している。防災装置は業者が定期的に点検している。地域住民への協力依頼はコロナ感染防止の為、自粛している。協力体制は築いている。非常用の備蓄は、水やカップラーメン・米・缶詰・レトルト食品等を用意し、カセットコンロも準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する研修を実施し、自尊心や羞恥心に配慮した声掛けやケアを行っている。	毎月接遇研修を実施し、さん付けを基本に本人の希望の呼びかけをしている。了解を得ての写真等の掲載やトイレ・居室のドアを閉める等でプライバシーの確保を図っている。排泄の失敗時はさり気ない声かけと素早い処置を、入浴は同性介助で行い、羞恥心への配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が話しやすい場所や時間にも配慮し、日常生活の支援の中で思いや希望を汲み取り、可能な限り自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホームの日課はあるが、その方に応じたペースで過ごしていただき、本人の希望を聞きながら生活リズムが保てるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類の選択は職員がサポートしながら本人に準備していただき、外部への散髪が行けない方は出張散髪を利用して好みの髪型やヘアカラーが楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、準備、下膳、台拭き、食器洗いなどご利用者の意欲に合わせて無理なく行えるよう職員がサポートしている。	個々に合わせた食事形態で提供している。利用者も一緒に盛り付けや下膳・片付けをしている。敬老会・誕生会・クリスマス会等の行事食は楽しみなものを心掛けている。焼き芋作りや仕出し弁当等で目先を変え、食欲をそそっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託事業所である「ほっとキッチン」の食事を提供している。栄養バランスも取れており、管理栄養士が一人一人に応じた栄養計算を行い、必要時には補助食品の検討を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内の歯科衛生士による定期的な訪問・口腔内のチェックによる管理を行っており、指導のもと職員が一人一人に応じた歯磨きの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックにて排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導を行ったり、時間帯に応じて負担なく排泄動作が行えるようポータブルトイレの併用を行い支援している。	排泄パターンを把握し、食事前後の時間帯や本人の表情・仕草等から誘導を行い、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。ポータブルトイレを活用している場合もある。夜はパットを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握を行い、必要時には補助食品などの検討、主治医への報告・相談を行っている。不快感が少なく、自然排便が促せるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴予定日は決まっているが、入浴の希望を聞き、拒否があった場合は時間帯や曜日の変更をする等対応を取っている。皮膚状態に合わせて、足浴ケアも実施している。入浴時には好みの音楽を流したり、ゆず湯にしたりとゆず湯やリラクゼーション効果も図れるよう入浴の支援をしている。	入浴は週2回午前中を基本に支援している。希望で柔軟に対応している。体調により清拭、必要時の足浴、汚染時の陰洗・シャワー浴等の実施で、気持ち良く過ごしてもらえるようにしている。一人介助であり、柚子湯で入浴を楽しむこともある。拒む場合は無理強いせず、日時の変更等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息に関してはご利用者のペースに合わせているが、時間の見当識がある場合等は、活動等を通して生活リズムが整うよう支援を行うこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルを作成し、内容確認が行えるようにしている。処方の変更があった場合は申し送りを行い、確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の身体状況に応じた役割や日課を通して日々過ごされている。得意な事や残存機能を活かし、家事動作やレクリエーション、行事への参加を愉しまれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご家族支援による外出や病院受診の実施、気候に応じて屋外への散歩やドライブ支援を行っている。</p> <p>近隣住民の声掛けや、校区の子どもたちの挨拶もあり良好な交流が築けている。(現在はコロナウイルス感染拡大予防のため制限中)</p>	<p>天候の良い時は、近隣の商店での買い物や散歩をしている。コロナ感染防止の為、少人数で車窓から、外の景色を見たり花見して楽しんでいる。初詣は鳥居と絵馬を手作りして、事業所内で実施した。家族との外出は受診同行のみにしている。ウッドデッキで外気浴しながらお茶を飲みおしゃべりをして楽しんでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望時には近隣の商店への買物同行の支援を行い、希望されるお菓子や衣類等の購入をされている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望時は家族の事前の同意を得た上で電話をかける支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用のリビングスペースは温度計・湿度計で管理・把握し、空気清浄機の利用と定期的な管理・消毒・清掃を行っている。季節感のある花や、季節に応じた飾りつけをし、和やかな雰囲気、くつろげる雰囲気が作れるよう工夫している。</p>	<p>リビングは、時間を決めて換気や消毒を実施し、空気清浄機やエアコンで室内環境を適切に調節している。季節の作品や花等の飾り付けで季節を感じられるように工夫している。利用者はそれぞれ好みのソファでくつろいだり、畳の部屋で落ち着ける雰囲気を味わったり、ウッドデッキでの外気浴やお茶を楽しみ、居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>建物の中心にあるリビングはいつでも利用することができ、団らんの場となっている。テラス側ホールもテーブルと椅子を準備し、外を眺めながら一人の時間を愉しまれる方もいる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族の協力ももらい、自宅で使われていた馴染みのある家具や、家族の思いが詰まった私物等を持参していただき、自宅のような家庭的な雰囲気・環境作りが出来るよう支援している。</p>	<p>使い慣れたベッドやダンス・テレビ・コタツ・座椅子・本棚・カーペット・寝具・ぬいぐるみ・炬燵・食器・家族写真等が置いてあり、自宅の部屋をそのまま持ち込んだような部屋作りで、慣れ親しんだ雰囲気の中で過ごせるように工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご利用の方が安全に移動しやすいよう手すりの設置や福祉用具の活用、空間の配慮をしている。ご本人やご家族の同意を得て、居室ドアへの目印等の工夫も行っている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない